

エルサレムでのテロ攻撃と「ヤコブの苦難から救い出す」 2008年7月4日 アシェル・イントレーター

前半部分は7月2日のエルサレムで起きたブルドーザーを使ったテロ攻撃の内容なので、省略致します。
(訳者)

現在イスラエルは3人の死者のために悼み、12名以上の負傷者のために悲しんでいます。今に至るまで、「ラケル」はまだ、愚かな、悪魔的な暴力の手にかかっている「その子らのために泣いている」(エレミヤ 31:15)のです。イエシュア(イエス)もエルサレムのために嘆きました(ルカ 19:41)。イエシュア誕生の頃、赤ん坊が大勢殺された(マタイ 2:18)のと同様に、なぜそんなことが起こるのか、誰も理解できません。現在、イスラエルの人々もなぜ世界の大半は自分たちを憎むのか理解していません。

このような苦難のただ中において、メシアニック・ジューのレムナント(残りの人々)はイスラエルで増え続けています。毎日人々が救われています。奇跡が目の前で起こっています。新約聖書は、終わりの日々の艱難について語っています(マタイ 24章、マルコ 13章)。また、「イスラエルはみな救われる」(ローマ 11:26)と語っています。終わりの日々の艱難と、イスラエルが救われるという見解は両方とも同じ源から出ています。

エレミヤ 30:7 - その日は大いなる日、(中略)それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。

ダニエル 12:1 - かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書に記されている者はすべて救われる。

パウロ(サウロ)がイスラエルの救いと、イエシュアが終わりの日々の艱難について語った時、二人は共にこれらの御言葉が頭にあったのです。艱難と救いは互いにつながっているのです。ここから私たちが学ぶのは:

1. 終わりの日々には艱難がある。
2. その時、イスラエルが救われる。
3. その間、私たちはここにいて、その救いをもたらすのを支援する。

イスラエルが救われる過程にある今、悪魔は自分の時間があまりないことを知っている(黙示録 12:12)ので、パニックし怒り狂っています。イスラエルの救いは、主の再臨と死者の復活の前の、神の御国の最終段階なのです。

ほぼ2000年の間、イスラエルが国家として存在すること、ましてイスラエルのリバイバルが起こることも考えられないことでした。しかし現在、イスラムのジハード(聖戦)や世界的な反ユダヤ主義にもかかわらず、イスラエルは再び復興し、この地には1万人を超えるメシアニック・ジューが住んでいます。これらの信者たちは一つになって祈り、賛美し、「イスラエルはみな救われる」と預言し、そしてそれに伴う艱難に立ち向かうこともいとわないのです。

この艱難の間に、悪からの主の大いなる約束としての守りがあることを知るのは重要なことです。

詩篇 91:10-11 - わざわいは、あなたにふりかからず、えやみも、あなたの天幕に近づかない。まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。

私たちは毎週金曜日の夜、安息日の夕食を食べる前、家族全員でこの御言葉を宣言します。どうか信仰と連携によって私たちと共に加わって下さい。